

ヤママユ

植栽地にちびっこ達を案内して、シラカバ丸太に腰掛けるように指導していた酒井さんの脚に大きな蛾が林床からよろよろと飛び立って止まりました。クスサンだと思いましたが、取り敢えずカメラで映像をゲットしておきました。しばらくしてさらに飛び立ちまして、ゆらゆらと上昇し、離れた樹の葉に止まったようでした。帰宅して調べますとクスサンではなくヤママユであることが判明しま



した。画像の記録は2014年8月18日11時19分でした。秋の初めに羽化するらしいので、この日の固体は羽化してまもない成虫のようで鱗粉の色が鮮やかでした。成虫は口が退化していて、羽化以後は何も食べずに、ただ交尾して産卵するだけのために生きるのです。

ヤママユは蛹化に際して美しい緑色の繭を作ります。「天蚕」といわれる繭の一種で、1ヶの繭で600mもの糸の長さのようです。この繭を集めて高

級絹布を作ることが出来るらしいのですが、筆者は見たことはありませんがさぞかし美しい布でありましょう。イモムシは先に紹介したオオミズアオによく似ています。分布は日本全土。食草は澄川森林の場合はミズナラ、クリだと思われます。クヌギ、コナラ、カシワ、南の方ではカシ類です。リンゴの葉も食べるそうですから、リンゴ農家にとっては害虫でありましょう。



ちびっこ達はホームマックの環境活動に参加した菊水いちい幼稚園の園児達でした。保護者や兄姉、弟妹も混じっていましたから、全部で50人規模の参加者でした。ヤチダモ幼樹のカミネッコンをギャップ地に植えていただきました。当メンバーの参加者は16名。子ども用のヘルメットがよく似合っていて、孫世代、なまらめんこいので心癒されるひと時でありました。